

主膵管狭窄に対するソーヘンドラ・ステント・リトリーバーの有用性

1. 研究の対象

慢性膵炎の主膵管狭窄に伴う病態に対する、ERCP 下のソーヘンドラ・ステント・リトリーバーの有用性を検討する。検討期間は、現在も続行して検討中。

2. 研究目的・方法

慢性膵炎による主膵管閉塞に伴う病態は様々で閉塞性膵炎、仮性嚢胞形成、膵石形成などによる持続的腹痛、膵臓萎縮、内外分泌機能障害による下痢消化不良症状、糖尿病が発症します。その症状緩和目的のために、狭窄閉塞した主膵管にステントを留置する必要があり、非常に強い堅い狭窄膵石にて通常にダイレーターやバルーンでは広がりません。そのため本来の目的とは違う器具：商品名「ソーヘンドラ・ステント・リトリーバー：Cook 社」を使用することにより、狭窄を簡単に突破でき、膵管チューブ留置することができます。当院ですでに 11 例に経験し、良好な臨床経過を保っています。

方法：ダブルバルーン ERCP を施行した症例の年齢、検査時間、処置内容、処置成功率、到達率、胆管もしくは膵管造影成功率、合併症率、入院期間等について調査する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

ダブルバルーン ERCP を施行した症例の年齢、検査時間、処置内容、処置成功率、到達率、胆管もしくは膵管造影成功率、合併症率、入院期間等

ERCP 下にソーヘンドラ・ステント・リトリーバーを使用した症例の年齢、性別、処置内容、処置成功率、臨床的成功率、合併症率、その後の経過等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院

電話：096-351-8000(代)

研究責任者：消化器内科 浦田 淳資

以上